

1. 人文学部・人文科学研究科

(1) 人文学部・人文科学研究科の研究目的と特徴	・・・	1-2
(2) 「研究の水準」の分析	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	1-7
【参考】データ分析集 指標一覧	・・・・・・・・	1-8

(1) 人文学部・人文科学研究科の研究目的と特徴

1. 人文学部・人文科学研究科は、人類の精神的遺産を継承し発展させ、文化的多様性と歴史性を踏まえた人間と社会に対する洞察を深めることをその研究目的とする。研究を行う過程及びその成果の公表においては、地域における人文学研究の拠点としての自らの役割を強く意識し、その研究成果を研究者集団のみならず広く地域社会に還元するとともに、人文学の専門的知見に基づき、地域社会の現代的課題の解決に貢献する。
2. 本学部ならびに本研究科は、哲学や歴史学、言語学、文学といった伝統的・基礎的な学問領域、東アジアの文化や社会を中心に扱う学問領域、心理学や社会学などの現代社会の諸問題を扱う学問領域を包括する多様な学問分野を擁している。とりわけ、朝鮮語学、朝鮮文学、ロシア文学の研究領域は本研究科の特徴のひとつである。これらの分野の専門的知見は社会全体にとって不可欠のものであり、また下記5に記載の東アジア研究の推進に貢献している。
3. 本学部ならびに本研究科は、多様な学問分野を有機的に連携させることにより、三つの基本的な方向性のもとに研究を進めている。すなわち、人文科学の基礎研究の充実、東アジア研究の推進、地域社会の現代的諸問題への学術的な取組である。
4. 人文科学の基礎研究については、長期的視野を踏まえて各分野の研究を維持し発展させていくことが重要な課題と捉えている。
5. 東アジア研究の推進については、日本海を取り巻く東アジアの中心に位置するという立地条件を活かし、日本、中国、朝鮮半島とその隣接地域の特質と諸文化間の交流などの研究に、文学、言語学、歴史学などの多様な切り口から取り組んでいる。
6. 地域貢献においては、地域における「人文知の拠点」として、地域の伝統文化の研究や市民のアカデミックな活動を支援することにより、地域社会の活性化に寄与している。また、地域社会の現代的諸課題への取組については、グローバル化、ダイバーシティなどの課題解決のために、さまざまな学術的視点から分析を行っている。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目 1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 3701-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 3701-i1-2）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成 30 年度に、旧 7 講座 9 コースに分かれていた教員組織を、より包括的な三領域（思想・歴史文化領域、行動・社会文化領域、言語文化領域）に再編成した（別添資料 3701-i1-3）。専門分野が比較的近い教員が同じ領域に属することで、専門分野の研究をより深化させることに加え、領域内の連携による分野横断的な研究が生まれることを意図したものである。[1.1]
- 平成 29 年度から富山県の人文知の拠点として、本学部教員による公開研究交流会である「富山循環型『人文知』研究プロジェクト公開研究交流会：「人文知」コレgium（以下「人文知」コレgiumという。）を開催している。教員が互いの研究内容を知り、研究交流を行うことで、狭義の専門領域の違いを超えた新たな研究の創出を目指しており、第 16 回（令和元年 11 月）には、言語文化領域に所属する言語学と英語学の教員による分野を横断した研究報告が行われた（別添資料 3701-i1-4）。[1.1]

<必須記載項目 2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 3701-i2-1～8）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 3701-i2-9～11）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部予算において、学部教員が開催するシンポジウム等の支援を行っている（別添資料 3701-i2-12）。これにより、学際的な内容を含め、多様な内容のシンポジウム等が企画、開催されている。毎年度末には、研究成果を報告書により検証するとともに、学内外に公表している。[2.1]
- 平成 28 年度から長期研修制度を実施しており、これまでに 3 名の教員が利用している（別添資料 3701-i2-13～14）。国内外の研究機関で研究を実施し、一次資料を直接調査することによる研究の深化や新たな研究課題の発見、他の研究機関の研究者との新たな連携による研究の進展等の成果が得られた。[2.1]

富山大学人文学部・人文科学研究科 研究活動の状況

- 平成 30 年度分の教員業績評価から、業績をポイント換算するための配点表（ポイントテーブル）を改訂し、査読付き雑誌掲載論文及び全国・国際学会での発表を従来よりも高く評価するとともに、地域に根ざした研究活動も評価項目として区分することとした。これにより、研究業績の数だけではなく、質の客観的な評価を適切に反映した業績評価を行うことが可能となった（別添資料 3701-i2-10）。[2. 1][2. 2]

<必須記載項目 3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（人文科学系）（別添資料 3701-i3-1）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 第 3 期中期目標期間は、著書・論文の数を維持しながら質を向上させることを目標とした。これに伴い、教員業績評価方法についても、平成 30 年度分から、研究業績をより重視し、査読付き雑誌掲載論文を高く評価する方針に転換した。
これにより、教員一人当たりの著書・論文数は第 2 期中期目標期間の 1.8 件／年から平成 28 年度から令和元年度は 2.15 件／年となったほか、査読付き論文数については、平成 28 年度から令和元年度にかけて教員数が 10%減少したにも関わらず、同数（17 件）となっている。[3. 0]

<必須記載項目 4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 25～40、43～46（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）の申請率・採択率を向上させるため、科研費相談員（学部教員が担当。平成 28 年度～平成 30 年度は各 2 名、令和元年度は 3 名）を配置し、申請者に対して、申請にあたっての事前相談や計画調書の事前点検などの支援策を実施した。また、教員業績評価において、科研費獲得に対する評価ポイントを高く設定変更した。
これにより、採択内定率（新規）は第 2 期中期目標期間の年平均 26%から、平成 28 年度から令和元年度は年平均 34%となった。[4. 0]

<選択記載項目 A 地域連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 地域に根ざした教育研究をさらに推進するため、平成29年度に砺波市と「砺波市と富山大学人文学部との連携に関する協定」を締結した。本協定により、砺波市の地区の祭りや砺波散村に関する研究を促進し、研究成果を基にした公開講座を開催している（別添資料3701-iA-1～2）。[A.1]

- 富山県の言語や文化、歴史、現代的諸課題に関して、様々な学問分野の教員が、地域住民、博物館等の施設の協力を得ながら研究を行っており、研究成果はシンポジウム等により、地域社会への還元をはかっている（別添資料3701-iA-3～4）。[A.1]

- 「人文知」コレgiumにおいて、第1回（平成29年6月）には社会学と人文地理学、第5回（平成30年1月）には文化人類学と日本語学を専門とする教員が、それぞれ富山県に関する研究報告を行った（別添資料3701-i1-4（再掲））。
なお、「人文知」コレgiumでの研究報告は、「人文知のカレイドスコープ—富山大学人文学部叢書」として、平成29年度から毎年出版している。これにより、富山県に関する研究を含めた人文学部教員の研究内容の学内外への可視化と研究成果の社会への還元を図っている（別添資料3701-iA-5）。[A.1]

- 本学中央図書館において、ラフカディオ・ハーン蔵書コレクションである「ヘルン文庫」を所蔵していることから、人文学部教員が中心となって「富山大学ヘルン（小泉八雲）研究会」を設立し、平成28年から毎年シンポジウムを開催し、ラフカディオ・ハーンに関する研究成果を発表している（別添資料3701-iA-6）。
同研究会の研究により、富山大学学長裁量経費（平成27年度～平成30年度）及び科研費（挑戦的萌芽研究、平成28年度～平成29年度）の採択を受けている。
[A.0]

<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部教員が開催するシンポジウムの経費支援等の結果、海外の機関に所属する研究者との共同研究数は平成28年度の21件から、平成30年度、令和元年度にはそれぞれ34件、30件へと増加した。相手先は、中国・韓国・ベトナムの東アジア圏だけでなく、アメリカ合衆国・カナダ・ドイツ・フランス等の欧米諸国にも及んでいる（別添資料3701-iB-1）。[B.1]

<選択記載項目C 研究成果の発信／研究資料等の共同利用>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- シンポジウムや講演会などの主催・共催は増加傾向にあり、研究者間だけでなく、広く一般社会にも最新の研究成果を普及させることに努めている（別添資料 3701-i2-12（再掲））。[C.1]
- 平成29年度から、「人文知」コレgiumを開催し、教員の研究成果を地域社会に発信している（毎年度6回開催）。学内参加者（学部教員、他学部教職員、学生）以外にも、外部の専門家や一般からの参加があり、継続参加している市民もおり、地域に定着した取組となっている（別添資料 3701-iC-1）。
さらに各年度の研究発表の内容を年度ごとに書籍化した「人文知のカレイドスコープ富山大学人文学部叢書Ⅰ～Ⅲ」を刊行し、研究成果をより広く公表している（別添資料 3701-iA-5（再掲））。[C.1]

<選択記載項目D 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部が主催等となっている会議・シンポジウム・ワークショップの件数は、平成28年度、29年度の各15件から、平成30年度は29件、令和元年度は33件に増加した（別添資料 3701-iD-1）。[D.1]
また、国内の学会・大会組織運営を担う学会理事・委員・雑誌編集委員への就任数は、平成28年度の25件から毎年度増加し、令和元年度は33件となっている（別添資料 3701-iD-2）。[D.0]

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

＜必須記載項目1 研究業績＞

【基本的な記載事項】

- ・研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

本学部・本研究科は、人間と社会・文化の本質の解明を目的とし、東アジア研究を特色として、日本、中国、ロシア極東地域の文化の特質や相互関係に関する高水準の研究を発信してきた。加えて、人文科学の基礎研究、現代社会の諸問題の解明にも積極的に取り組んでいる。2017年度からは、教員の研究発表の場として「人文知」コレギウムを定期的で開催し、専門領域を超えた交流の活性化を図っている。その結果、若手研究者を中心に多様な研究成果が得られており、これらの中から受賞歴、学会誌や専門書での書評や紹介、掲載誌の国内外での評価、インパクトファクター等の客観的指標、研究の独創性、稀少性等に照らして評価、選定した。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部教員の研究成果が外部から高く評価され、第35回「とやま賞」（平成30年度）、第3回「メルロ＝ポンティ研究賞」（平成30年度）、第36回「渋沢・クローデル賞」奨励賞（令和元年度）等の受賞に繋がっている。

また、従来からの研究業績及びロシア文化普及への貢献により、「ドミートリイ・リハチョフ賞（サンクト・ペテルブルグ市）」（平成29年度）を授与されている。

[1.0]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
	45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数
	46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数